



地域日本語支援ニュース こだま 第 244 号

2013.11.14



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

===== 目次 =====

1■日本語教育メール相談から—27■

ひらがな・カタカナを覚えられない学習者への指導法

2■進学進路ガイダンス情報■

高校進学説明会情報(12月・1月)*今回は新しい情報はありません。

=====

1■日本語教育メール相談から—27■

ひらがな・カタカナを覚えられない学習者への指導法

AJALT では、各地域において在住外国人にたいする日本語支援を行っている方々からの日本語支援に関するご相談をメールで受け付けています。教室運営や対象別指導法、日本語文法など、皆様の日々の活動における疑問に、AJALT のベテラン教師が丁寧にお答えいたします。今回は、最近頂いたご相談の中から、下記のご相談と回答をご紹介します。皆様もどうぞ、お気軽にメール相談をご利用下さい。
☆☆☆☆☆☆☆☆

<ご相談内容>

ボランティア教室で、どうしてもひらがな、カタカナが覚えられない学習者(幼稚園児の母)に、なんとか覚えてもらえるようにするにはどうしたらいいでしょうか。

<回答>

日本語は話すことより、書くことの方が難しいと言われています。ひらがな、カタカナ、漢字を使い分け、アラビア数字、ローマ字も使い、さらに縦書き、横書き、書体の違いもありで、学習者にとっては大変な負担だと思います。仮名の学習法について、一緒に考えてみたいと思います。

◆「かな」の覚え方◆

どうしても覚えられない学習者には、まず「読み」のみに集中し、たっぷり時間をかけるといいと思います。

1. 五十音表を使って

オーソドックスなやり方ですが、文字の順番に「かな」の音を聞かせながら、文字を見せ、字形と音を一致させます。五十音の並び順を覚えることも、辞書を引いたりすることときに役に立ちます。

※国際交流基金の「日本語教育通信」の以下のサイトに、あいうえおの歌やあいうえおカルタなど、楽しい活動が紹介されていますので、参考になさってください。

ローマ字が読めるなら、五十音表はローマ字併記のものを使用し、いつも手元において参照してもらうのもいいでしょう。

2. 文字カードを使って

文字カードは市販されてもいますが、100 円ショップで売っている名刺カードなどを利用して、学習者に合わせ工夫したものを作るといいと思います。

<1文字ずつ>

1枚に1文字ずつ「かな」を書いた文字カードを利用します。カードの字形を見せながら音を聞かせます。裏に音を示すヒント

(ローマ字例 表：さ 裏：s a) を書いてもいいでしょう。

- ・支援者が「さ」のカードを見せて、学習者が「さ」と言う。
- ・支援者が「さ」といったら、学習者が「さ」のカードを取る。
- ・似たような字のカード同士を並べて比較し、どこが違うかなどを話しあって意識化する。
- ・学習者が自分であいうえお順にカードを並べる。
- ・画数ごとにグループ化して覚える。
- ・カードの文字の一部分を隠して何の字かあててもらう。

などなど、文字学習は繰り返しが重要ですが、カードにすることで、単調な文

字学習にも変化がでます。

カタカナを学習したら、ひらがなカードとカタカナカードのマッチングもできます。

<文字→単語へ>

最初は負担が少ないように、「あいうえお」を学習したら、「あいうえお」の5枚のカードから選んだり、あいうえお順に並べるのが難しい場合は、虫食い（要所要所にあらかじめカードを置いておく）にします。

文字の認識ができれば、「あし、いす」など2文字に増やします。「あ」と「し」のカードを並べて読んでもらったり、学習者にカードを選んで並べてもらったり、2文字でカードを活用します。学習者にもよりますが、五十音を完全に覚えたら2文字に進めるのではなく、「あいうえお」を学習したら「あお、うえ」「かきくけこ」までやったら、「あか、えき」など、学習者がよく知っている単語を既習の文字であらわしていきます。この場合大切なことは学習者が意味を解っているものに限定することです。「えき」はこう発音して、こう書くんだという発見を楽しんでもらえるといいですね。

<単語→単文/簡単に短い文へ>

2文字単語から3文字単語、それ以上と増やしていき、それができたら、少しずつ、文を読む練習をします。

*「書き」の場合

まずは「読み」に集中しますが、「書き」をやるなら、自分や家族の名前や住所の「読み」を十分やったあと、それらが書けるようにしておく和生活に役立つと思います。

◆動機づけ/注意したいこと◆

文字学習には、学習者が意味を知っている語彙を使うと書きましたが、それに加えて、学習者がよく使う語彙を選べば、学習動機にもつながります。例えば、自分や家族の名前、住所、お子さん関係の語彙などです。本来漢字でしか表記しないようなものを、あえて「ひらがな」に直して教えるのには賛成しませんが、幼稚園児のお子さんがある場合などは、「ふたばようちえん」「さくらぐみ」などと、仮名表記してある場合も多いと思います。学習者が、子どものお迎えなどでそれらを目にする機会が多いなら、こうした言葉を使うのも一つでしょう。それを使ってお子さんの様子を話すなどすると、会話の発展にもつながります。

文字学習も実際の生活を意識して行いますから、通常、カタカナでしか書か

ない単語（例えば、ケーキ、サッカー、ボール、スプーンなど）をひらがなで練習したり、ひらがなで書くものをカタカナで練習したりすることはしない、といった注意も必要だと思います。

文字が読めるようになると、町の中で見かける文字が読めるようになり、学習者はとても充実感を持ちます。一緒に町を歩いたりしたとき、学習者が読める文字を見つけたら、あの字は何？などに関心を向けてもらいましょう。それが自律学習へ繋がっていけばいいですね。

（AJALT 所属日本語教師 新野佳子）
